

介護のなかま

2011年6月5日
【発行】生協労連
介護部会事務局
NO. 38
電話：03-3408-0067
fax：03-3408-8955
メール：qyg03057@nifty.ne.jp

第11回介護事業交流会 第2回介護部会総会を開催

生協労連は5月21～22日の2日間、福岡県宗像市で開催、全国から14組織、講師や助言者含め90人が参加し、学習と分科会での真剣な討論と交流をおこないました。

大好評だった矢嶋嶺さんのお話

私たちの役割は利用者が主体的に生きる事をサポートすること

今回の交流会では、矢嶋診療所開設者でグループハウス「遊子舎」所長の矢嶋嶺さんが「医療と介護に携わる人たちの役割と福祉の本質」と題して講演しました。

先生は、「老人医療費を削減する目的として、介護保険制度が導入された。介護保険は『介護の社会化』といったのはウソ。政府のいうことは信用しないほうがいい」「医療は体に良いというのは幻想、病気は7000種あるが、医者が直せるのは770(11%)、薬害エイズなど医者が作る病気は9%もある」など、現在の医療と介護をめぐる本質をズバリ指摘。そして、「わたしは、延命治療はしない。これが方針。こうした組織は日本に5～6ある」「介護は、その人の生活を生き生きさせること。在宅ケアで大事なことは医者の指示でやったということで、介護者は免責される」「もう一回、あのヘルパーに会いたい、そういう人はいっぱいいるのではないか」など、医療と介護の連携のなかですばらしい仕事ができること、利用者が主体的に生きる事をサポートすることが介護に携わる労働者の役割であること

を強調しました。

参加者からは、「在宅で死ぬ事がいかに素晴らしいか、私たち在宅支援を行なっている者として医療機関で亡くならないで、在宅の見とりができるような支援が出来ればと今回の矢嶋先生の講演で学びました」「現在病気から死に至る期間が長くなり、『医者』と『ヘルパー』との協力で素晴らしい医療が出来るという事を話されていましたが、とても納得・共感できました」などの感想が寄せられました。



講演する矢嶋嶺さん

6つの分科会で交流と討論 こんごの課題が見えてきました

交流会では6つの分科会に分かれて、学習と交流、討論をおこないました。

第1分科会の「認知症を考える」では、参加者からの事例をもとに、認知症の方への対応について交流をおこないました。「認知症の方への対応の仕方についていろいろな意見を聞くことができ、明日から即実行してみようと思います」などの感想が寄せられました。

介護・福祉ではたらくみなさんにコピーして配布をお願いします

第2分科会の「医療ケアへの対応、介護・医療の連携」では、助言者と矢嶋先生も参加しての議論となりました。「『チームケア』が本当に出来ているかどうかの本質を問われる内容だったと思う」「医療者が足りない事、介護者が足りない事を双方で補っていく事が医療と介護の連携で大事な事なんだと聞いて、介護者として嬉しかった」などの感想が寄せられています。

第3分科会は、「介護保険制度の改善めざして」。助言者より「介護保険の課題」の報告の後、率直な意見交換をおこないました。保険者による対応の違いに驚くとともに、改善のためにもみんなが声を上げること、そのためにも組織化が重要だということに参加者で確認しました。

第4分科会は、「通所・施設の現状とこれからの課題」をテーマにそれぞれががんばっていること、悩み事などの交流をおこないました。業務会、入浴介助、レク、労働条件などの具体的な問題で話しあいました。

「各施設の特色や困っている事が聞けてよかったです。チラシやパンフレットな



どを持ってきてもらえらるともっとお互いの理解が深まったと思う」などの感想も寄せられました。

第5分科会の「サ責の現状と役割」では教育システム・人材不足・処遇の3のテーマを中心に議論。各生協が訪問介護事業を福祉事業のコア部門として位置づけているなか、事業高、職員人数は大きな割合を占めていますが、実態は、教育・研修の計画が不十分、募集しても問合せすらないという実情で、職員の処遇はとても自立できる賃

金とはいかないなど、多くの課題が明らかになりました。

第6分科会は「ヘルパーのしゃべり場」で利用者や家族について、現場の悩み、働きやすくするためになどについて語り合いました。交流したことで、参考になったことや違い、課題が見え、参加者からは「少数での話し合いでとても楽しかったです。ヘルパーの質のアップをさらにしてよりよりパートナーとしてさらなる介護をめざしていきたい」などの感想が出されました。

第2回総会 まとめと次年度方針、役員体制を確認

総会では、第2と第5分科会の報告後、みやぎの上條さん（世話人）から特別報告として、「東日本大震災の報告」が行われました。みやぎ生協の被災状況の報告後、こーぷ福祉会の被災状況が報告されました。石巻の施設を中心に36人の職員が家屋損壊や津波の被害に合ったが、亡くなった人や怪我人がいなかったことは幸いだったこと。津波の被害をうけた石巻のデイでは職員が泊り込みで利用者さんを守ったこと、他の事業所でもさまざまな困難のなかで、利用者さんの安否確認などをおこない、利用者からはたいへん喜ばれたことなどが報告されました。



討論では、ひろしまの黒川さん（世話人）が処遇改善のとりくみ、こーぷあいちの近藤さんが組織拡大の報告をおこないました。

最後に、議案と次年度の世話人を確認して総会を終了しました。

当日はこーぷ福祉会への募金を呼びかけ、
66,899円集まりました。